

史料 1005 「本朝武家諸姓分脉系圖」への添付古文書

東大史料編纂所に所蔵されている「本朝武家諸姓分脉系圖」の各家の系譜には、その系譜の証拠としてその家に伝わる古文書を添付しているが、仁杉家系譜にも合計9件の古文書が添付されている。当然ながら「写」で印鑑などのある原本ではない。

原本は屋敷で保管されていたが、その後の与力本家改易、明治維新、関東大震災、戦災などで次第に散逸してしまっただらしい。

古文書 No.1 平重衛・惟盛から伊東九郎（祐清）にあてた書状

仁杉家蔵
改年静溢之處、東人等企逆心
之由、其間候訖。遠三越三ヶ国
在廳共事、被聞届、慥可有示
到来者也。
六月九日
重衛
惟盛
伊藤 九郎殿
平重衛・惟盛
六月九日
伊藤九郎殿

仁杉家蔵
改年静溢之處、東人等企逆心
之由、其間候訖。遠三越三ヶ国
在廳共事、被聞届、慥可有示
到来者也。
六月九日
重衛
惟盛
伊藤 九郎殿

古文書 No.4 北条家朱印状写 仁杉五郎左衛門幸高に宛てた幸田与三の書状

本井郷月宮分出陣夫志正一人、前々
仁杉・大野兩人召仕候処、只今大野退転
付而、詫言申間、一円仁杉被下候、申付
可召仕者也、仍如件

亥七月廿七日 幸田与三奉之
仁杉五郎左衛門殿

右井月宮分出陣夫志正一人、前々
仁杉方取立候人召仕候處、只今大野退轉
付而、詫言申間、一円仁杉被下候、申付
可召仕者也、仍如件
幸田与三
仁杉五郎左衛門殿

古文書 No.5 仁杉五郎三郎（正通）にあてた書状 庚戌3月 差出人不明

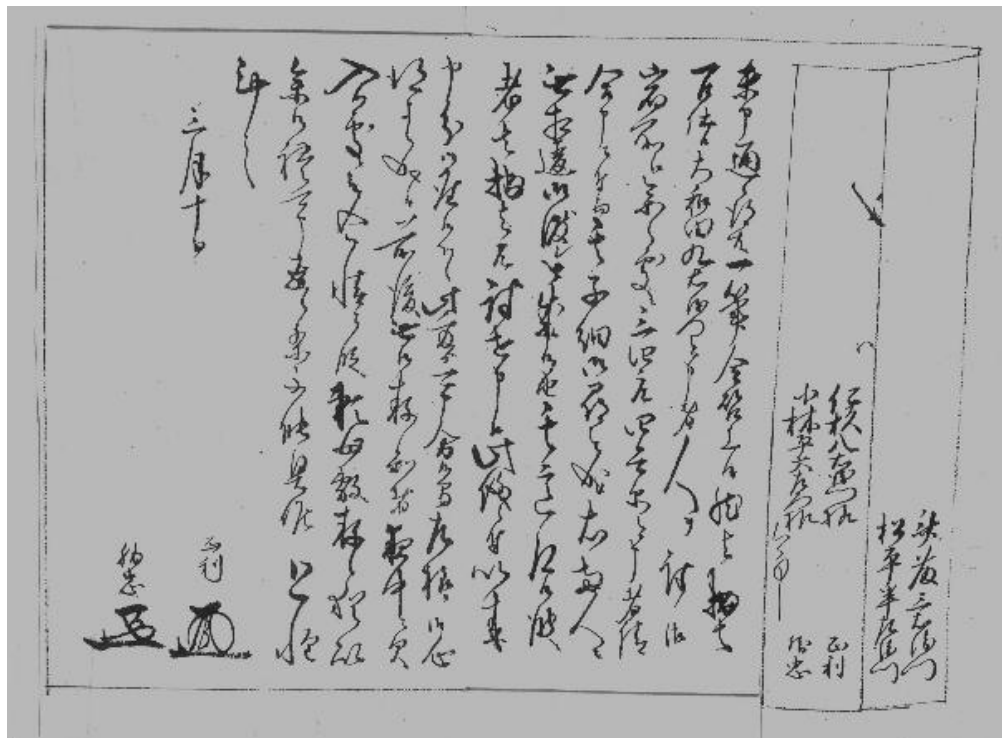
御大方様方桶之事
仁杉五郎三郎殿
御大方様別定之事、此問笠原調之分桶
拾貫文 百卅一大小共二桶とうこたらいの代物
小日記別紙有之
以上

右此間、自地下中調候事、諸郷へ令赦免候間、料足を
請取、御用立可調、年中之入用無々沙汰致算用、歳之
暮二可申上者也、仍如件、

庚戌 三月廿四日
仁杉五郎三郎殿

仁杉五郎三郎殿
御大方様別定之事、此問笠原調之分桶
拾貫文 百卅一大小共二桶とうこたらいの代物
小日記別紙有之
以上
右此間、自地下中調候事、諸郷へ令赦免候間、料足を
請取、御用立可調、年中之入用無々沙汰致算用、歳之
暮二可申上者也、仍如件、
庚戌 三月廿四日
仁杉五郎三郎殿

古文書 No.6 齊藤正利・松平勝忠連署書状写 仁杉八右衛門にあてた書状 年代不明



古文書 No.7 朝藤十郎判物 仁杉半兵衛（幸教）に与えた書状 元和3年(1617)

Handwritten document in cursive Japanese (sōsho). The text is written vertically from right to left. A vertical seal on the right side contains the name '仁杉半兵衛' (Nishiki Hanbeiwa) and '朝藤十郎' (Asahitane Jūrō). The document is dated '元和三年 巳正月日' (Gen'wa 3rd year,巳正月日).

覚
同心の名前(略)
以上
貳拾人

右之同心貳拾人、其方に預け置候間、御城御番ならびに諸法度堅可被申付候
以上
元和三年 朝藤十良
巳正月日 花押
仁杉半兵衛 殿

非尋常有他字者書石不明
 昨廿七日、武州生山
 越後衆追崩、敵一人討捕
 忠節候、向後弥至走廻者
 急度可及恩賞者也、仍
 如件
 永禄二年十一月廿八日 氏政 判
 仁杉 六郎 殿

此家蔵有他写本書名不明
 昨廿七日、武州生山
 越後衆追崩、敵一人討捕
 忠節候、向後弥至走廻者
 急度可及恩賞者也、仍
 如件
 永禄二年十一月廿八日 氏政 判
 仁杉 六郎 殿

今度、當城可楯籠走廻候
 由候、尤神妙、可走廻候處
 至に分明者本意之上、
 又及望之所一所、可遣
 者也、仍如件
 永禄四年
 三月十日 氏政 判
 仁杉 六郎 殿

今度、當城可楯籠走廻候
 由候、尤神妙、可走廻候處
 至に分明者本意之上、
 又及望之所一所、可遣
 者也、仍如件
 永禄四年
 三月十日 氏政 判
 仁杉 六郎 殿